

修士論文（要旨）

2026 年 1 月

中国残留孤児帰還者およびその家族の高齢者デイサービス利用の現状とメンタルヘルスの
課題

指導 中谷 陽明 教授

国際学術研究科

国際学術専攻

老年学学位プログラム

224J5001

謝 可欣

Master's Thesis (Abstract)

January 2026

Current Status of Day-Service Utilization and Mental Health tasks among Elderly
Returnees of Chinese War Orphans and Their Families

XIE KEXIN

224J5001

Master of Arts Program in Gerontology

Master's Program in International Studies

International Graduate School of Advanced Studies

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Nakatani Yomei

目次

1. 研究背景と意義	1
2. 先行研究	2
2.1 帰還者およびその家族の高齢化と生活実態に関する研究	2
2.2 帰還者およびその家族のメンタルヘルス課題に関する研究	3
2.3 帰還者向け高齢者デイサービスの利用現状と課題に関する研究	5
2.4 異文化背景における高齢者介護とメンタルヘルスの比較研究	5
2.5 先行研究のまとめと本研究の位置づけ	7
3. 研究目的	8
4. 研究方法	8
4.1 調査対象	8
4.2 インタビュー実施方法	8
4.3 インタビュー内容	8
4.4 倫理的配慮	8
5. 調査結果の KJ 法分析	9
5.1 KJ 法分析の準備：全データ抽出とカード化（表形式）	11
5.2 親和グループ化：類似カードの集約	14
5.3 親和グループに基づく主題の抽出	15
6. 考察	18
6.1 中国残留孤児帰還者のメンタルヘルスとデイサービスの利用の関係について ...	18
6.2 デイサービス利用による中国残留孤児帰還者のメンタルヘルス支援の効果について	19
6.3 結論	21
7. 参考文献	23

1. 研究背景と意義

第二次大戦後、中国東北部に残留した日本人は「中国残留邦人」とされ^{[7][10]}、1972 年以降、永住帰国が進められてきた^[8]。13 歳未満で家族と離別した者は「残留孤児」とされる^[3]。

令和 7 年時点で永住帰国者は 6,731 人（家族含む 20,918 人）に達し、私費帰国者を含め約 10 万人と推計されている^{[7][10][14]}。

帰還者の高齢化が進み、平均年齢は 80 歳以上に達しており、介護ニーズの増大が指摘されている^{[2][4]}。また、言語の壁や心理的外傷に起因するアイデンティティ葛藤は、メンタルヘルス上の課題とされている^{[1][3][9]}。

本研究は、東京都の集住地域を対象に、デイサービス利用とメンタルヘルスの関連を明らかにし、異文化高齢者介護研究および地域支援の検討に資することを目的とする。

2. 先行研究

日本の介護保険制度において、言語・文化の違いは支援上の課題とされているが^{[12][13]}、デイサービスを含む介護分野の実証的研究は十分とは言えない^[4]。

先行研究では、帰還者およびその家族の高齢化に伴う介護需要の増大、経済的脆弱性、社会的孤立が指摘されている。^{[2][5][7][8]}、言語の壁や社会的孤立を背景とした孤独感やアイデンティティ葛藤などのメンタルヘルス課題が報告されている^{[2][4][6][9]}。

また、デイサービスは同文化交流を通じて孤独感を軽減する効果が示されている一方、中国語対応の不足や経済的制約が課題とされている^{[4][11]}。しかし、デイサービス利用とメンタルヘルスとの関連性を実証的に検討した研究は乏しい。

3. 研究目的

本研究は、東京都内デイサービス利用者である帰還者およびその家族を対象に、利用課題とメンタルヘルス問題を明らかにし、支援のあり方を検討する。

4. 研究方法

帰還者およびその家族の高齢者 5 名以上および介護職員 3 名以上を対象に半構造化インタビューを実施し、得られた逐語録データを分析した。インタビューは 1 名あたり約 1 時間行い、調査にあたっては桜美林大学研究活動倫理委員会の承認を得た（承認番号 25021）。

5. 調査結果の KJ 法分析

インタビューデータを KJ 法で分析した結果、8 つの親和グループから 4 つの主要テーマが抽出された。公的支援により経済的安定は一定程度確保されているが、独居や家族関係、言語の壁により社会的孤立とメンタルヘルス課題が生じている。デイサービスは利用時間内に心理的安心感を提供する一方、帰宅後の不安解消には至らず、異文化介護における支援体制や専門研修の不足が課題として示された。

6. 考察

以上より、デイサービスは一時的な心理的支援として有効である一方、帰宅後の孤独感や言語・家族関係に起因する課題を十分に解消できないことが明らかとなった。持続的な支援を実現するためには、デイサービスを中核とした多主体連携による包括的支援システムの構築が不可欠である。

7. 参考文献

- [1] 張 嵐 : 日本における中国残留孤児のアイデンティティ, 人文社会科学研究, 18:53-68 (2009).
- [2] 森田深雪 : 中国帰国者とその家族の医療・介護をめぐる経験への考察, 安田女子大学紀要, 46:259-268 (2018).
- [3] 石井恵美子, 野崎真奈美, 永野光子 : 日本に永住帰国した中国残留日本人孤児のストレス対処力と関係する特性, 文化看護学会誌, 14(1):2-10 (2022).
- [4] 晏祺君, 田村直子, 牛久保美津子 : 中国語が対応可能なデイサービスを利用しながら在宅で生活する中国帰国者の晩年期の思い ―質的研究―, 日本在宅ケア学会誌, 29(1):113-122 (2025).
- [5] 柊岩, 浅野慎一 : 孤立と差別 ―永住帰国した中国残留日本人孤児の家族・社会関係―, 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, 4(2):171-192 (2025).
- [6] 辻村真由子, 石垣和子, 胡秀英 : 中国帰国者 1 世・2 世とその中国人配偶者に必要な看護支援の検討, 文化看護学会誌, 6(1):12-23 (2014).
- [7] 丁文磊, 松原茂樹, 下田元毅, 木多道宏 : 高齢中国帰国者の環境移行と住環境の実態に関する研究 ―中国残留邦人一世・二世とその配偶者を対象とした調査を通して―, 日本建築学会計画系論文集, 87(793):487-498 (2022).
- [8] 上尾さと子 : 中国残留孤児の帰国後の生活とその問題 ―厚生省「中国帰国孤児生活実態調査」を中心に―, 人間文化総合科学研究科年報, 38:17-30 (2023).
- [9] 張嵐 : 中国残留孤児二世のアイデンティティ ―ライフストーリー研究から―, 日本オーラル・ヒストリー研究, 5:133-152 (2009).
- [10] 牧田幸文 : 中国帰国者の高齢化と支援の考察 ―越境の経験と老いのライフストーリーから―, 都市経営, 17:95-106 (2024).
- [11] 晏祺君, 牛久保美津子 : 中国語が対応可能な介護事業所からみた中国帰国者の在宅介護支援に関する問題と要望, 日本農村医学会雑誌, 73(5):482-489 (2025).
- [12] 松本美智代, 大城凌子 : 孤立と差別 ―在沖高齢外国人の異文化間介護を取り巻く現状と課題 (外国人被介護者へのインタビュー調査を通して) ―, 国際保健医療, 35(2):101-111 (2020).
- [13] 大浦智子, 鷺尾昌一, 石崎達郎, 大坪徹也, 安西将也, 甲斐一郎, 植木章三, 矢庭さゆり, 藤原佳典, 奥村二郎 : 特別永住者や外国系日本人における日本の高齢者介護サービスへのアクセスの現状と課題 ―公衆衛生モニタリング・レポート委員会報告―, 日本公衆衛生雑誌, 67(7):435-441 (2020).
- [14] 厚生労働省 : 中国残留邦人の状況 (令和 7 年 11 月 30 日現在)
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/bunya/engo/seido02/kojitoukei.html> (閲覧日 2025 年 11 月 10 日)